

いづみさの昔と今 第364回

新収蔵資料 壁貼文書

冬季企画展の展示資料のうち今回は壁貼文書について紹介いたします。この資料は家屋の壁を補強するために貼られていた江戸時代の古文書です。当時の紙は今よりも貴重なもので、しかも非常に丈夫でした。そのため、文書としての役割を終えた後は様々な用途に転用されました。壁の補強もそのうちの1つです。今回展示している資料は複数の古文書を貼り継いだまとまりが合計12カ所あり、古文書の総数は200点ほどにのぼります。

さて、本資料の宛先の多くは江戸時代の佐野村の商人である覚野兵蔵です。覚野兵蔵家は宝暦2（1752）年に本家から分家し米穀肥料商を営んだ家で、当主は明治時代に至るまで代々「兵蔵」を名乗りました。現在NPO法人の事務所として使われている同家の蔵（本町）は、国の登録文化財となっております。今にその姿を残しています。作成された年がはっきりと分かる文書はわずかですが、「天明八年」（西暦1788年）と作成年が記されたものが1点

確認できます。また「戊申」と干支が記されたものもあり、これも同じ年と考えられます。その他の文書に記されている人物などの情報を踏まえると、西暦1700年代末頃の文書が大半を占めていると推測できます。これまで覚野兵蔵家の資料は明治時代以降のものしか確認できていないため、本資料の発見は江戸時代の覚野兵蔵家、ひいては佐野村や取引先の様子が分かる新発見といえます。

本資料には食野家が覚野兵蔵に宛てた文書が数点確認できます。食野家は佐野村を本拠とした豪商で、江戸時代に廻船業や大名貸などで財をなしました。本資料内には食野賀兵衛が覚野兵蔵に宛てて精算のために銀子一貫匁を支払うよう記したものがあり、同家との取引が確認できます。

また泉南地域内では塩屋徳三郎という人物から宛てられたものもあります。何らかの取引によって銀を覚野兵蔵に送った際のものや、渡した銀の総額の確認を依頼したものなどが確認できます。徳三郎の署名には印も

押されており、そこに「泉州尾崎」と見えることから、尾崎（現阪南市）に居を構えていた商人であることが読み取れます。

最後に和歌山の取引先も確認できます。岡崎屋喜右衛門という人物が覚野兵蔵に宛てた文書には「新伝甫」の地名が見えます。これを和歌山城下の「新伝法」（現在の和歌山市東蔵前丁・西蔵前丁）を指すと考えれば、和歌山城下で瑞芝焼を創業した坂上重次郎（1774～1816）の屋号が岡崎屋で、しかもその親戚に喜右衛門が確認できます。定期的に見てもこの喜右衛門である可能性が高いといえます。



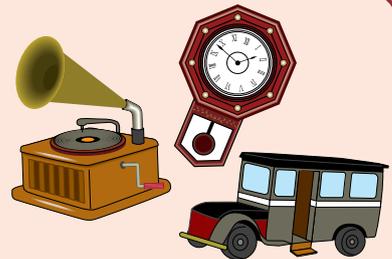
▲食野賀兵衛書状

レイクアルスタープラザ・
カワサキ歴史館いづみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌平日が休館）
開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

②学校シリーズ(2) 市立第二小学校



▲昭和11年の第二小学校。第二小学校は大正9年に泉佐野駅前創立しました。昭和9年の室戸台風で校舎が倒壊し、池田谷久吉の設計で昭和11年に新校舎が竣工しました。

▼昭和36年の第二小学校上空からの写真。昭和34年に火災にて校舎が焼失したため、昭和35年に現在地である高松の新校舎に移転しました。



▲現在の第二小学校の校舎を正門側から見た所。手前左側に体育館、右側にプールができています。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中! !